

## 竜にまつわる話

今年辰年です。動物に当てはめると竜になります。竜は、十二支の中で唯一の想像上の動物です。四神（青龍、朱雀、白虎、玄武）の一つで、水中にすむとされ、鳴き声ひとつで風雲を呼び、竜巻となって昇天し、空を飛翔するとされています。こうしたことから、竜神や竜王と呼ばれる神様は、雨を降らせ、水を守る神様として、昔から水不足に悩まされてきた讃岐では、特に大切にされてきたようです。

水中にすむ竜王の宮殿が竜宮です。その竜宮が男木島近辺にあったとする伝説が残っています。古事記や日本書紀に書かれている、やまさちひこ山幸彦ととよたまひめのみこと豊玉姫命の物語と一緒にこの地域に伝わっているものです。男木島には豊玉姫神社があります。豊玉姫命は孫が初代天皇となったことから、子孫繁栄の神様として、また、安産や縁結びの神様として崇敬されています。同時に、日本書紀には「豊玉姫、方（みざかり）に産（こう）むとときに竜に化為（な）りぬ」との記述もあります。男木島やその周辺地域でも、豊玉姫命を竜と見なして、あるいは、竜宮の乙姫と同一視して、水を支配する雨乞いや止雨の神とする見方が強くあったと思われます。

その他にも、讃岐国一宮である田村神社は、水神を祭る神社として知られていて、奥殿内の泉には竜がすんでいる、という言い伝えが残っているそうです。また、香川町には、西嶋八兵衛築造とされる龍満池もあります。さらに、塩江町にある香川県最高峰の山は、その名も竜王山です。

高松市内を見回しただけでも、これだけの竜にまつわる場所や伝説があります。水不足の問題もあり、この地域の人々の竜に対する思いというのは、古くから特別なものがあつたのかもしれません。

竜は、中国では皇帝のシンボルとされてきました。その意味では、十二支の動物の中で最も強く、勢いがあり、人々の憧れる存在なのでしょう。「龍頭蛇尾」、「画竜点睛」といったことわざは竜の強さや勢いを伝えます。竜にあやかり、渇水や洪水といった水災害に悩まされることなく、昇竜のごとく運勢の上向く年にしたいものです。